

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年九月度 入選句（投稿総数千七百二十六句・小中学投句数千百九十三句）

特選

選者 和田 勝子

くりたちがいがいがつけてやってきた 大垣市 たに あげは(小三)

今ちょうど栗の時期ですものね。栗の姿形をよく観て作句されましたね。栗林なのかしら。それとも自宅の栗なのかしら。しっかりとをつけている栗や半分つけている栗もあるでしょうね。いがは大切ですものね。「くりたちが」と詠まれているところから、すぐたくさん落ちていいることがわかります。栗は、食用やお菓子にと重宝がられますね。わが家にはいはいの栗になりましたね。栗を観て素直に詠まれ、すばらしいですね。

すいはんきあけたら香る栗ごはん 大垣市 高木 愛加(小六)

ちょうど九月から老舗では「栗きんとん」「甘露煮」「栗ごはん」等「どうぞ」と栗は食用やお菓子などにされ、誰もがこの時期味わられることでしょうね。すぐく重宝な果物ですものね。作者のお家でもお母さんの心のこもった「栗ごはん」なのですね。いい香り匂ひと共に炊飯器を開けたら一段とアップした栗の香りだったのですね。香りが伝わってきますね。中七の詠みがいいですね。家族全員が「満足」と言った表情で食されている様子が浮かびます。とつても瞬間を上手にとらえられ素直に作句され、すばらしいです。

とんぼのめぐるぐるまわるふらふらだ 大垣市 なんせ えま(小二)

今、ちょうどとんぼの季節ですね。たくさんとんぼが飛び回っていますね。とんぼは、木の枝、洗たく竿の先でも止まっていたのですね。ぐりぐりしたとんぼの眼に興味があったのですね。じつと見つめていたらとんぼの様子が変わってきたのですね。中七の「ぐるぐるまわる」一緒に回ってしまったのかしらね。一緒になったところを素直に詠まれたところがすてきですね。とつてもよく見て素直に作句されすばらしいです。

秀逸

お父さん焼きたてさんまつまみだよ 大垣市 杉原 修哉(小六)

おおかぜでそらのくもさんころもがえ 大垣市 ごとう ゆい(小二)

十五夜の空にかがやく金メダル 大垣市 ふじい きゆう(小三)

とんぼとりはしやぐ弟おいかける 大垣市 ささき ゆいな(小三)

見上げたら空一面のいわしぐも 大垣市 しみず けいた(小三)

身長を追いこしてゆくミニトマト 大垣市 長瀬 優奈(小四)

テープきる赤白ゆれる運動会 大垣市 三輪 亮太(小五)

台風できげんが変わる空の顔 大垣市 後藤 幸太郎(小六)

稲光車の中でおおさわぎ 大垣市 傍島 倫(小六)

新松子松の木ゆられ旅に出る 大垣市 細野 蒼空(小六)

入選

あかとんぼゆうやけぞらがすきみたい 大垣市 山本 さくらこ(小二)  
 ひぐらしの鳴き声ひびき耳すます 大垣市 伊藤 勇樹(小六)  
 てのなかのみどりにひかるオニヤンマ 大垣市 柘植 結吏(小二)  
 ゆうやけがいぶき山にもおちてきた 大垣市 たちかわ ゆな(小二)  
 まどあけてすずしいよるのむしのこえ 大垣市 日比 理人(小二)  
 どんぐりでへいたいつくつていざしようぶ 大垣市 えび ゆづき(小二)  
 こおろぎがそばのふとんとまってた 大垣市 小川 誠悟(小二)  
 こどもたちつきみだんごをねらってる 大垣市 いとう みはね(小二)  
 しょうにゆうどうしぜんからんだれいぞうこ 大垣市 ごとう しゅう(小三)  
 軍配がぼくにあがった子どもずもう 大垣市 えんどう るき(小四)

入選

えがおの輪人をつなげる盆おどり 大垣市 栗野 晴智(小五)  
 カマキリもすずしい木かけてひと休み 大垣市 三輪 さや(小五)  
 秋になり緑の服がぬげていく 大垣市 青木 琉空(小五)  
 すんだ空はるか遠くのうろこぐも 大垣市 安田 光希(小五)  
 ふんばって羽をふるわせ鳴くすずむし 大垣市 影山 莉乃(小五)  
 うんどうかい心がゆるまない一日だ 大垣市 勝 十葉(小六)  
 秋の空大声でさけぶ運動会 大垣市 海老 壺喜(小六)  
 じぞうぼんちようちんさがす子どもたち 不破郡垂井町 川瀬 悠香(小二)  
 ゆうしよくのさんまほおぱりおいしいね 大垣市 伊藤 慶(小二)  
 かきごおりがぶがぶがぶおいしいな 大垣市 久保田 菜々華(小二)

選者吟

毬栗を恐々持てば手に軽し

勝子